福祉ファシリテーテーター養成講座

2021年10月7日～2022年1月13日７回シリーズ

テーマ：地域との共生

「これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割」

基調講演　ルーテル学院大学教授　和田敏明氏

地域での暮らしに何が起こっているのだろうか。

少子高齢化の本格化

自治体、社会資源、地域社会の脆弱化により社会的孤立が拡大。

地域福祉の新しい役割

・今の仕組みでは対応できない多様な生活課題に対応する。

・地域住民との繋がりを再構築、支え合う体制を実現する。

・住民と行政が協働し新しい福祉を実現する。

地域の人々の繋がりが失われたために顔の見える日常生活圏域に住民・自治会・公民館・ボランティア・NPO・商店・企業・交番などの多様な協働が大切、ご近所の底力を発揮し地域再生の役割を果たす。

「多世代・障害のある方々と共生を」

小金井社協グループは顔見知りの多い挨拶しあえる「あら～」が飛び交う街作りをめざします。

小金井市内の多くのボランティアさんが創意工夫して活き活き楽しみながら活動することが持続するコツのようでした。

地域の人とボランティアと行政が協働して住み易い街づくりに貢献したいと思いました。　増村幸子記

主催三鷹市・武蔵野市・小金井市・調布市

各社協・ルーテル学院大学協働事業

警視庁　失語症アプリ制作

2021年８月31日

小金井警察署地域課のおまわりさんから警視庁で開発中の失語症アプリについて意見を求められ、十分にコロナ対策を実施し、意見交換しました。

実験したアプリは当事者には使い勝手が悪かったです。

①失語症、高次脳機能障害を知って欲しい。

②交通事故などの現場検証で後日高次脳機能障害を発症することを念頭に、頭部を丁寧に検証して欲しい。

おまわりさんが失語症・高次脳機能障害を理解して対応してくださると助かりますね。

穏やかで温かみのある意見交換会でした。

参加者：松嶋有香　増村幸子

緑川ゼミ生優秀ポスター賞を受賞

高次脳機能障害者の介護者の負担感について中央大学文学研究科 博士後期課程心理学専攻に在籍している越智 隆太さんが、第45回日本高次脳機能障害学会学術総会」で、優秀ポスター賞を受賞しました。

この研究は、緑川晶先生(文学部)と浜本加奈子さん(大学院文学研究科博士前期課程修了生)と共同で高次脳機能障害者と認知症者の介護者における心理的負担感について、介護者へのアンケート調査を実施、研究しました。

認知機能障害や自立度の低下が重度であるほど、介護者の負担感は高く、介護者自身だけでなく当事者に対しても、心理相談を始めとする支援が必要です。

高次脳機能障害では親の介護割合が高く、「親亡き後」の当事者の生活支援が問題です。介護者それぞれに応じた支援が大切であると示唆されました。（中大ホームページ）

茶和会で介護する家族へ「心理的支援のニーズ」のアンケートの協力を求めた浜本さんと緑川先生

第 13 回講演会 ZOOM にて

高次脳機能障害者小金井友の会

いちごえ会

編集責任者：増村幸子
編集者：村田雅英
〒184-0004
小金井市本町 2-20-9-103
ホームページ：http://ichigoe.org/
メール：info@ichigoe.org

たより 28 号
2022 年 2 月 20 日発行

『見えない障害』を理解する
高次脳機能障害とは

当会上田敏顧問によるオンライン講演会がありました

日時：2021年10月9日13：30～15：30

主催：小金井市障害者地域自立生活支援センター

上田 敏　（いちごえ会顧問）

第１部（１）高次脳機能障害とは？

高次脳機能障害とは、「脳機能の『高次の障害』」ではなく、「『高次の脳機能』の障害」、つまり記憶、注意、遂行機能、社会的行動、言語などの障害であること、しかも認知症、発達障害、知的障害を除いたその一部であることを説明しました。

つづけて高次脳機能障害の特徴として、①進行性ではなく、ゆっくりと軽くなる。②さまざまな症状が、人により異なった組み合わせ・程度で起ってくる。③困ることもみな違うが、解決の方向には共通性がある。④症状は、疲労、睡眠不足、などで強くなる。だから体調管理が大事!と述べました。

第１部（２）高次脳機能障害のさまざまな姿

いろいろな障害について説明し、最後の「当事者と家族の悩み」で、①「見えない障害」で「知られていない障害」なので、誤解を受けやすい。②元気な時に身につけた行動は「意外にまとも」なので、ふつうではない」ところが目立つ。③なまけている」「ふまじめだ」などと誤解されやすいと述べました。

第１部（３）高次脳機能障害からの立ち直り－

「下からの立ち直り」－、(4)「上からの立ち直り」もある！－(5) 横からの立ち直りもある!でいろいろな「立ち直り」「回復」の実例を紹介し、続けて＜高次脳機能障害者の「こころ」と家族のこころ＞と題して、「障害者の『こころ』と家族の『こころ』との間で『マイナスがマイナスを生む』悪循環が起こりがちだが、それを「プラスがプラスを生む」良循環にしていくことが可能であるとお話ししました。

第２部　高次脳機能障害者の地域生活・社会参加における当事者・家族の会の重要さ

日本高次脳機能障害者・家族の会は1997年にはじまり、全国的には数百におよぶと思われている。

その1例として、いちごえ会の活動を紹介して終わりました。

オンライン参加者：約 300 人、数人の方（市長、増村会長など）の現地参加もありました。上田敏 記

疲労、睡眠不足は症状が強く出る
だから体調管理が大事です

オンライン

第 20 回　茶　和　会　2021 年 11 月 6 日

参加者7名

司会者は鈴木桂子さん

介護施設の夜勤明けにもかかわらず、リラックスして気持ち良く話し合い出来るように進行して下さいました。来春早々福祉関係の国家試験に挑戦されます。

参加者は福祉関係に勤務の方が半数、他は家族、当事者でおなじみの方々なので、おしゃべりに盛り上がりました。

自己紹介・近況報告

・高次脳機能障害者は支援の狭間に居る人が多い。
・過去に苦労した体験を活かして高次脳機能障害者のために貢献したい。
・精神障害者施設で勤務、福祉関係の国家試験を受験する。
・先日の上田敏先生の講演（見えない障害・高次脳機能障害とは）をアーカイブ再送信する。
・長年一緒に暮らした愛犬の死で再度犬を飼うか、検討中。
・今期、小金井市障害者週間の実行委員長として企画を検討中、当会のポスター掲示を予定。
・福祉ファシリテーター養成講座を勉強中。
・移動中の電車内からスマホ参加、車内なので会話できずジェスチャーで応答した。

ZOOMにも慣れ自然体で意見交換ができました。

今後はオンライン対応が出来ない方への対応を検討します。

2021年12月4日 10:00～16:00 イベント 障害者週間　宮地楽器小ホール

コロナ禍対策を十分に取り、慎重に開催されました。

小ホールでは

障害のある人もない人も共に学び共に生きる社会を目指す小金井市条例の見直しの報告

みんなで奏でよう　手話体験（いっしょに手話べろう）が催されました。

ロビーでは

市内の各種障害者団体が活動紹介、いちごえ会もポスター・タペストリーを展示、

会報・いちごえ会のご案内などを用意しました。

地下1F市民ギャラリーでは障害児・者のアート展がありました。

出席者　山本、三輪、後藤、増村4名

主催：小金井市障害者週間実行委員会

委員長：松嶋有香さん（いちごえ会会員）

中央大学緑川ゼミ生と協働　2021年12月19日10:30～12:40

1年ぶりに交流会第23回をオンラインで開催しました

ホスト
中大緑川ゼミ
Yさん

デザイン
中大緑川ゼミ
Iさん

参加者：いちごえ会 12 名、中大緑川ゼミ 12 名　計 24 名

リアルで一度もお会いしないまま、遠く岡山から参加された方、家族、障害者施設で働いている方など多彩な顔振れで心温まる感動的な交流会でした。

第1部　自己紹介と近況報告

（Aさん）　中学生時に交通事故に遭い、高次脳機能障害の認定を受けなかった。卒業後イギリス留学、仕事も続かない、車の免許取得も出来ず、何をやってもうまくいかない。もう死ぬしかないと追い込まれた時に牧師さんと出逢い自分を理解してくれた。

事故10年後、ようやく高次脳機能障害の認定を受け、障害者手帳を取得できた。今は福祉施設で働いている。

高次脳機能障害の症状の軽重に関係なく一人一人違う当事者・家族の苦悩があり、まるでドラマのようでした。

第2部ゲーム

進行役
中大緑川ゼミ
Mさん

４つの組に分かれ、

「アイスブレーキング」

いつ、誰が、どこで、何をしたか

「多数派ゲーム」どちらが多数派かなどを楽しみました。

緑川ゼミ生の素直な心に触れて感動した、当事者それぞれが違った状況で、違う困りごとに向き合い頑張っている体験談を聴きたいと、参加者から感想がありました。

ヘルプバッジについて意見交換

この夏、中大緑川ゼミ生のIさん他３名が、いちごえ会の当事者・家族・支援者などに困りごとをインタビューしました。

高次脳機能障害を知れば知るほど分からなくなり、高次脳機能障害者のために何ができるのか、見えない障害では何が有効なのか話し合いました。その結果、多岐に亘る当事者の症状から特に苦手と思われる部分を4つピックアップし、上記写真の4種類のヘルプバッジを試作しました。

当日の主なご意見は下記の通りでした。

＊周囲の人にわかって貰いたいので使いたい。
＊障害をオープンにする・しないそれぞれの判断でいい。
＊会社では苦手なことを公表しないので使えない。
＊例えば、記憶の苦手な方にはメモをとる・書く時間を待つなどの対応を一緒に考える、いい方法。
＊高次脳機能障害を理解してもらう社会への呼びかけには有効だ。
＊今のヘルプカードは気恥しいがこのバッジならつけたい。

若い方の新しい発想で新発見、失語症・高次脳機能障害者への困りごとに有効か、継続議論することになりました。

中央大学緑川ゼミ生の皆さま感動をありがとうございました